

現況

從事員 七人 看護婦 四二人  
調劑員 三人 其他 九人

現在收容人員 一五二人 (大正十五年四月二十七日)  
診療科目 內科、外科、產婦人科  
外來受附時間 午前八時—午後四時  
入院手續 施療 但シ内二割五分ハ食費トシテ五十五錢徴收  
料 身元引受人及區長ノ證明ヲ要ス  
費 市費  
東京市本所療養所ヲ移轉セシモノナリ  
省線信濃町驛下車

醫 員 二一人 看護婦 五三人  
調劑員 七人 其他 八八人  
施療 一五〇人  
有料 一六三人 (大正十五年四月二十七日)  
內科、外科、眼科、耳科、皮膚科、泌尿科、產婦人科、小兒科  
午前九時限  
施療 及 有料  
本院診療ヲ受ケ入院ノ必要ヲ認メラル、ヲ要ス  
濟生會ノ經費  
本院ハ貧困ニシテ醫療ヲ受ケル者力ナキ病者ニ施療スル事ヲ目的トシテ大正四年十二月一日開院ス  
電話高輪三六〇〇、赤羽橋下車

現況

從事員 四六人 看護婦 三三人  
調劑員 五人 其他 三一人

濟生會病院麹町分院  
麹町區富士見町四ノ一五  
恩財財團濟生會  
大正十二年二月五日  
秋山練造  
醫 員 四六人 看護婦 三三人  
調劑員 五人 其他 三一人  
施療 一〇〇人  
有料 一〇八人 (大正十五年四月二十七日)  
內科、外科、耳科、皮膚科、口腔科、  
午前八時—午後四時  
施療及有料

泉橋慈善病院  
神田區和泉町一  
財團法人泉橋慈善病院  
明治四十二年三月  
木村德衛  
醫 員 六六人 看護婦 五六人  
調劑員 五人 其他 四四人  
施療 一六六人 (大正十五年四月一日)  
內科、外科、眼科、耳科、皮膚科、泌尿科、產婦人科、小兒科  
新來患者午前八時ヨリ  
再來患者午前八時三十分ヨリ  
全部施療

現況

入院手續 六四人  
從事員 六三人

本院ノ診察ヲ受ケ入院ノ必要ヲ認メラルルヲ要ス  
濟生會ノ經費  
大正十二年二月五日診療所ノ名稱ヲ以テ始メ大正十四年十一月一日麹町分院ト改稱ス  
電話四谷二三三八 富士見町下車

診察ノ結果入院ノ必要ヲ認メラレタル貧困者、  
函證明書ヲ要スルコトアリ  
基金ノ利子  
明治三十九年三井家ハ細民ノ施療ノ必要ヲ認メ世  
設シ大正六年組織シ同四十二年三月三井慈善病院ヲ開  
附帶事業病相談所アリ  
電話淺草六〇〇一—二美倉橋下車

現況

從事員 一三人 看護婦 六四人  
調劑員 五人 其他 六三人

聖路加國際病院  
京橋區築地明石町三七  
日本聖公會宣教師社團  
明治三十五年二月十一日  
トイヌラー  
醫 員 一三人 看護婦 六四人  
調劑員 五人 其他 六三人  
施療 一五〇人  
有料 一三〇人  
八二人 (大正十五年四月二十七日)  
內科、外科、眼科、耳科、皮膚科、泌尿科、產婦人科、小兒科  
午前九時—正午  
施療、實費及有料  
本院ノ診察ヲ受ケ入院ノ必要ヲ認メラル、ヲ要ス  
日本聖公會宣教師社團費  
中産階級者實費診療ト細民ノ施療トヲ目的トシテ  
開設セラレ  
電話銀座五〇二五—六本願寺前下車

日本赤十字社病院  
豊多摩郡澁谷町  
財團法人日本赤十字社  
明治十九年  
佐藤恒丸  
醫 員 五七人 看護婦 四一七人  
調劑員 一〇人 其他 一四二人  
施療 二六六人 (大正十五年四月二十七日)  
內科、外科、眼科、耳科、皮膚科、產婦人科、花柳病科、小兒科、齒科  
午前八時—午後四時  
施療及實費  
施療患者ハ住居地市區町村役場及警察署ノ證明書ヲ要ス  
事業收入、恩賜金、補助金  
明治十九年橋本陸軍々醫總監博愛社ノ事業トシテ  
病院ヲ設立シ明治二十八年五月日本赤十字社病院  
ト改稱ス  
附帶事業兒業相談所  
電話青山二六一〇 日本赤十字社病院前下車



備 沿 財 況

入 料

院

手

考 革 源 續 金

施療、自我、公費（一日五十五錢）  
 府、同潤會、濟生會及警察署町役場ノ證明書ヲ  
 要ス  
 事業收益、寄附金又ハ補助金  
 大正十二年春三河島町開醫師團峽田醫會ハ救療事  
 業ヲ企圖シ創業一ヶ月ニシテ大震災ニ遭ヒ其後濟  
 生會建設シタル産院ノ後ヲ繼キ病院トナス  
 王子電車町屋停留場下車

行旅病人及行旅死亡人取扱關係法規

## 行旅病人及行旅死亡人取扱法

明治三十二年三月二十八日 法律第九十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

### 行旅病人及行旅死亡人取扱法

- 第一條 此ノ法律ニ於テ行旅病人ト稱スルハ步行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト稱スルハ行旅中死亡シ引受者ナキ者ヲ謂フ住所居所若ハ氏名知レス且引取者ナキ死亡人ハ行旅死亡人ト看做ス
- 前二項ノ外行旅病人及行旅死亡人ニ準スヘキ者ハ内務大臣之ヲ定ム
- 第二條 行旅病人ハ其ノ所在地市町村長之ヲ救護スヘシ
- 必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅病人ノ同伴者ニ對シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ
- 第三條 行旅病人又ハ其ノ同伴者ヲ救護シタルトキハ市町村長ハ速ニ扶養義務者若ハ家族又ハ第五條ニ掲ケタル公共團體ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ
- 前項ノ通知及引取ノ手續並期間ノ指定其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム
- 第四條 救護ニ要シタル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第五條

行旅病人若ハ其ノ同伴者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキ又ハ救護費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テ其ノ引取並費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第六條

扶養義務者ニ對スル被救護者引取ノ請求及救護費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ請求スルコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シテ求償ヲ爲スヲ妨ケス

第七條

行旅死亡人アルトキハ其ノ所在地市町村長ハ其ノ狀況相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ記録シ其ノ屍體ヲ假土葬スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アル場合ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ妨ケス

第八條

墓地若ハ火葬場ノ管理者ハ本條ノ假土葬又ハ火葬ヲ拒ムコトヲ得ス  
必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ對シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ行旅病人ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ準用ス

第九條

行旅死亡人ノ住所居所若ハ氏名知レサルトキハ市町村長ハ其狀況相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ公署ノ揭示場ニ告示シ且官報若ハ新聞紙ニ公告スヘシ

第十條

行旅死亡人ノ住所若ハ居所及氏名知レタルトキハ市町村長ハ速ニ相續人ニ通知シ相續人分明ナラサルトキハ扶養義務者若ハ家族ニ通知シ又第十三條ニ掲ケタル公共團體ニ通知スヘシ

第十一條

前項ノ手續其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ニ付テハ第三條第二項ヲ準用ス  
行旅死亡人取扱ノ費用ハ先ツ其ノ遺留ノ金錢若ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサルトキハ相續人ノ負擔トシ相續人ヨリ辨償ヲ得サルトキハ死亡人ノ扶養義務者ノ負擔トス

第十二條

行旅死亡人ノ遺留物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ但シ其ノ保管ノ物件滅失若ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手数ヲ要ストキハ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコトヲ得

第十三條

市町村長ハ第九條ノ公告後六十日ヲ經過スルモ仍行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得サルトキハ行旅死亡人ノ遺留物品ヲ賣却シテ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得其ノ仍足ラサル場合ニ於テ費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條

市町村長ハ行旅死亡人取扱費用ノ辨償シタルトキハ相續人ニ其ノ保管スル遺留物件ノ引渡スヘシ相續人ナキトキハ正當ナル請求者ト認ムル者ニ之ヲ引渡スコトヲ得

第十五條

行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若取扱ニ關スル費用ハ所在地市町村費ヲ以テ一時之ヲ繰替フヘシ

第十六條

前項費用ヲ辨償金徴収ニ付テハ市町村稅徴收ニ關スル例ニ依ル

第十七條

行旅病人行旅死亡人ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム  
外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所有物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條

船車内ニ於ケル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條

此ノ法律ニ於テ市町村長トアルハ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區長ニ市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ準用ス



第二十條 北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セサル地ニハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 此法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス  
第二十二條 明治十五年第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

### 行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱方

明治三十二年六月十九日 内務省令第二十三號

行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依ル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル件左ノ通定ム

- 第一條 飢餓凍餒ニ迫リ歩行ニ堪ヘサル行旅者歩行ニ堪ヘサル旅行中ノ妊婦產婦ニシテ手當ヲ要スルモ其ノ途ヲ有セサルモノ及行旅者又ハ住所居所ナク若ハ不明ナル者ニシテ引取者ナク警察官署ニ於テ救護ノ必要アリト認め引渡シタルモノハ行旅病人ニ準ス
- 第二條 行旅病人又ハ其ノ同伴者ヲ救護シタルトキノ市町村長ハ遲滞ナク引取ヲ爲スヘキ期間ヲ指定シ且被救護者ノ狀況ヲ具ヘ扶養義務者若ハ家族ニ之ヲ通知スヘシ其ノ取引ヲ爲スヘキ必要ナキニ至リタル場合ニ於テハ前ニ通知ヲ爲シタル扶養義務者若ハ家族ニ對シ直ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
- 第三條 前項ノ通知ハ扶養義務者若ハ家族ノ所在地ノ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得前項ノ囑託ヲ受ケタル市町村長ハ遲滞ナク扶養義務者若ハ家族ニ通知スヘシ
- 第四條 被救護者ノ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ハ其ノ指定ノ期間内ニ之ヲ引取ルヘシ

- 第五條 疾病ノ狀況其ノ他特別ノ事項ニ依リ指定ノ期間内ニ被救護者ヲ引取ルコトヲ得サル事情アルトキハ被救護者又ハ其ノ引取ヲ爲スヘキ者ノ請求ニ依リ市町村長ニ於テ相當ノ期間ヲ指定シ留置救護ヲ爲スコトヲ得其ノ請求ナキ場合ト雖市町村長ニ於テ必要ト認めムルモキ亦同シ
- 第六條 被救護者ノ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ニシテ指定ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキ又ハ留置救護ノ請求ヲ爲スモ相當ノ事故アリト認め難キトキ又ハ市町村長ニ於テ留置救護ノ必要ナシト認めタルトキハ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ニ之ヲ送還スルコトヲ得
- 第七條 被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ナキトキ又ハ分明ナラサルトキ其ノ他被救護者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ被救護者ノ狀況ヲ具ヘ行旅病人及行旅死亡人取扱法第五條ノ公共團體ニ其ノ引取ヲ爲スヘキコトヲ通知スヘシ
- 第八條 前項ノ通知ヲ受ケタル公共團體ハ遲滞ナク被救護者ヲ引取ルヘシ
- 第九條 行旅病人及其ノ同伴者ノ救護ハ之ヲ救護スルニ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得但シ救護ノ資料及費用ヲ要スルモノニ在テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ資料及費用ヲ支辨スルコトヲ要ス
- 第十條 救護ニ要シタル費用ノ辨償ヲ被救護者若ハ扶養ノ義務者ニ請求スルトキハ計算書ヲ添ヘ且辨償ヲ爲スヘキ期間ヲ指定スヘシ
- 第十一條 前項ノ請求ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ費用ヲ辨償スヘシ
- 第十二條 被救護者ヨリ救護費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テ其ノ扶養義務者ナキトキ若ハ分明ナラサルトキハ市町村長ハ其ノ計算書ヲ添ヘ行旅病人及行旅死亡人取扱法第五條ノ公共團體

ニ費用ノ辨償ヲ請求スヘシ

第九條 前項ノ請求ヲ受ケタル公共團體ハ遲滯ナク其ノ費用ヲ辨償スヘシ  
行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條ニ依リ公署ノ揭示場ニ告示スルトキハ三十日以上之ヲ揭示スヘシ

第十條 行旅死亡人ニ關シ相續人又ハ扶養義務者若ハ家族ニ通知スルトキハ死亡人ノ狀況相貌其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ通知スヘシ

第十一條 行旅死亡人ノ相續人及其ノ扶養義務者ニ對シ行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ請求スルトキハ第七條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 行旅死亡人取扱費用ニ付其ノ遺留ノ金錢若ハ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルモ仍足ラサル場合ニ於テ相續人及扶養義務者ナキトキ若ハ分明ナサルトキハ最初ニ公告ヲ爲シタル日ヨリ起算シ六十日ヲ經過シタル後行旅死亡人ノ遺留物品ヲ賣却シテ其ノ費用ニ充ツヘシ仍足ラサルトキハ行旅病人及行旅死亡人取扱法第十三條ノ公共團體ニ對シ計算書ヲ添ヘ之ヲ請求スヘシ

第十三條 第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條ノ公告ヲ爲サザリシモノ及公告後相續人若ハ扶養義務者ノ知レタルモノニ付テハ費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テ直ニ前項遺留物品ヲ賣却スルコトヲ得

第十四條 行旅死亡人ノ遺留物件ヲ賣却スルトキハ費用ノ辨償額ニ達スルマテヲ限度トシ其ノ價格アル物件ヲ競賣スヘシ  
有價證券及見積價格十圓未滿ノ物件ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ競賣ニ付セスシテ

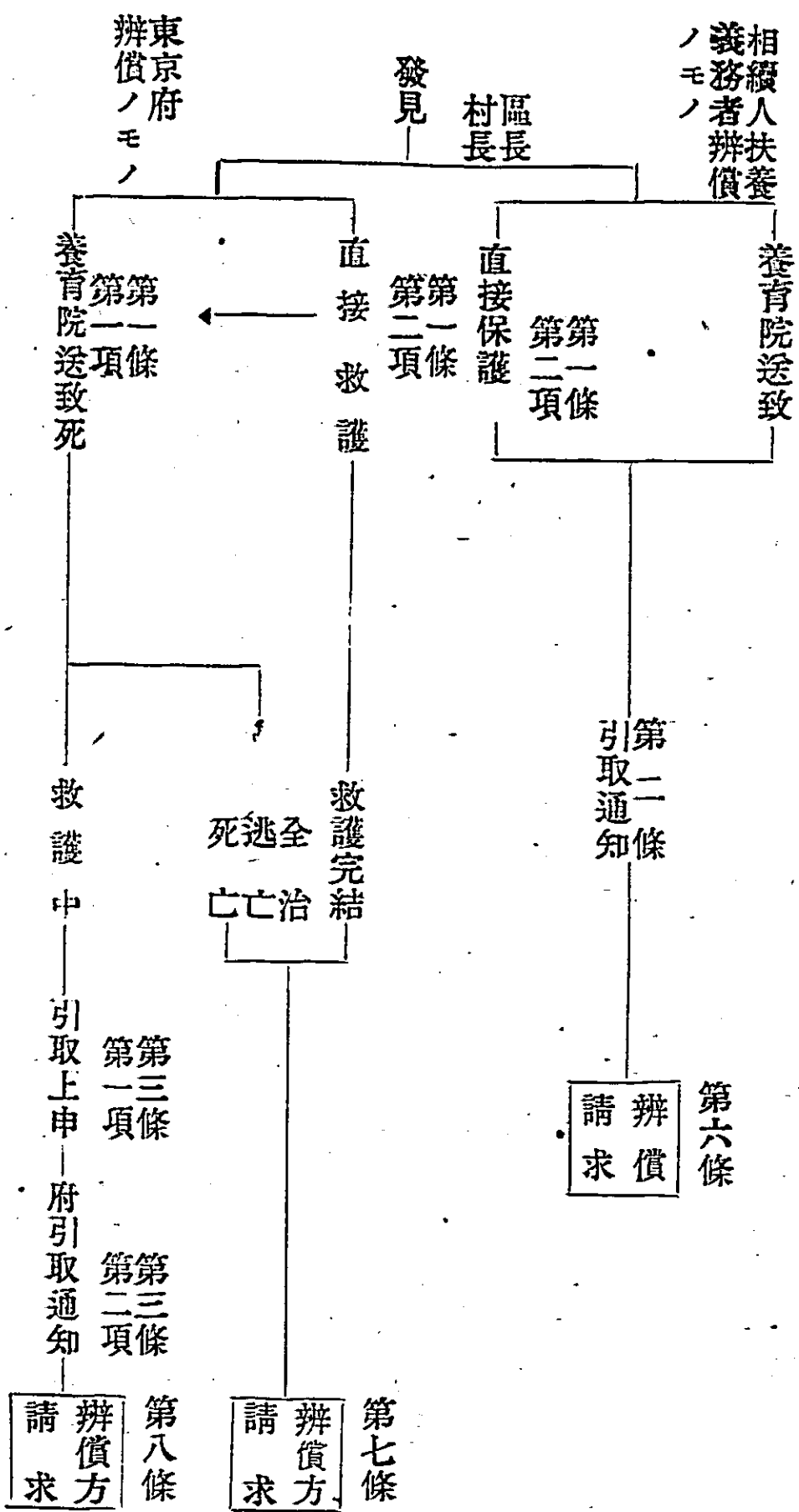
第十五條 處分スルコトヲ得  
行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關シ市町村費ヲ以テ繰替フヘキ費用ハ左ノ種目トス

- 一 醫師診察料手術料旅費日當及診斷書料
  - 二 藥價及療養ニ關スル必要品費
  - 三 食料
  - 四 看護人及地人費
  - 五 被服寢具料
  - 六 病人死亡人ノ爲特ニ要スル薪炭油費
  - 七 入院料借家料小屋掛料
  - 八 護送及運搬ニ關スル諸費
  - 九 死體檢案料及檢案書料
  - 十 假土葬及火葬ニ關スル諸費
  - 十一 墓標費
  - 十二 公告料
- 前項ノ外特ニ要スル費用及費用ノ限度並之ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム  
船舶又ハ汽車内ノ行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外最初ノ著船地又ハ停車地ノ市町村長之ヲ掌ル但シ取扱上不適當ト認ムル場合ニ於テハ船長又ハ車長車掌ハ他ノ著船地又ハ停車地ヲ指定スルコトヲ得

第十六條

本例ニ於テ市町村長トアルハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長ニ市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ準用ス

第一項 行旅病人同死亡人取扱手續圖解



- 一、第六條ハ取扱費用ヲ扶養義務者ヨリ徴收
- 一、第七條ハ取扱費用ヲ府ヨリ辨償(府引取前事件完結)
- 一、第八條ハ(府引取ノモノ發見ヨリ府引取迄ノ費用)
- 一、府引取後ハ養育院ニ直接入院料ヲ支拂フ

行旅病人行旅死亡人取扱手續

東京府訓令第二十五號(明治三十九年十二月廿八日)

改正 明治四十二年訓令第一號大正八年第八號、二年第四號三年第八號五年第九號六年第一號 島廳、郡役所、市役所、區役所、島役所、町村役場、島村役場、 行旅病人行旅死亡人取扱手續右ノ通改正ス

行旅病人行旅死亡人取扱手續

- 第一條 行旅病人及其ノ同伴者ニシテ救護ヲ要スルトキハ東京市養育院ニ送致スヘシ 遠隔ノ地又ハ重病等ノ爲前項ニ依リ難キトキハ救護地ニ於テ適應ノ措置ヲ爲スヘシ
- 第二條 扶養義務者又ハ相續人若ハ家族ニ對シ行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ引取又ハ取扱ノ通知ヲ爲ストキハ通知書ノ外被救護者ニ在テハ第一號乃至第四號死亡人ニ在テハ第一號及第四號乃至第六號ノ書類ヲ添付スヘシ
- 一、行旅病人行旅死亡人若ハ其ノ同伴者ニ關スル調書(第一様式)



二、救護當時ノ狀況並救護ノ顛末書

三、醫師診斷書ノ寫

四、所持金品調書若ハ遺留金品調書(第二樣式)

五、死體發見當時ノ狀況取扱ノ狀況並相貌書

六、醫師ノ檢案書若ハ警察官署ヨリノ引渡通知書ノ寫

第三條 本府ニ對シ現ニ救護中ニ屬スル行旅病人若ハ其ノ同伴者ノ引取通知ヲ爲ストキハ通知書ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、戶籍謄本若ハ其ノ寫

二、行旅病人若ハ同伴者ニ關スル調書(第一樣式)

三、救護當時ノ狀況並救護ノ顛末書

四、醫師診斷書及警察官署ヨリノ引渡通知書若ハ其ノ寫

五、扶養義務者若ハ家族ニ關スル調書(第二樣式)

六、扶養義務者若ハ家族ニ引渡スコトヲ得サル事實ヲ證スルニ足ルヘキ書類

前項本府ニ於テ引取ルヘキモノト決定シタルトキハ之ヲ通知ス

第四條

行旅死亡人ノ住所居所若ハ氏名知レサルトキハ其ノ狀況、相貌遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ東京市内ニ於テ發行スル新聞紙一種ヲ以テ一回公告スヘシ

第五條

第一條第二項ノ被救護者ニシテ本府ニ於テ引取リタルモノ、救護事務ハ其ノ救護ヲ爲シタル區町村長之ヲ取扱フヘシ但シ次項ニ依リ養育院ニ送致シタル場合ハ此限ニ非ス

前項被救護者ニシテ東京市養育院ニ送致スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ送致ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條

第一項ノ被救護者ニシテ救護ヲ要スル事由止ミタルトキハ其ノ救護ヲ止ムヘシ  
第一項ノ被救護者ニシテ東京市養育院ニ送致シ又ハ救護ヲ止メタルトキハ其ノ旨直ニ報告スヘシ

救護若ハ取扱ニ關スル費用ノ辨償ヲ被救護者相續人扶養義務者ニ請求スルトキハ請求書(第四樣式)ニ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、救護費計算書若ハ取扱計算書(第五樣式)

二、所持金遺留金及所持物件遺留物件若ハ不用物件賣却代金調書(第六樣式)

本府ニ引取ノ通知ヲ爲サ、ル行旅病人、同伴者ノ救護又ハ行旅死亡人ノ取扱ニ關スル費用ヲ本府ニ請求スルトキハ請求書(第四樣式)ノ外救護費ニ在テハ第一號乃至第二號及第

第七條

五號乃至第十一號ノ書類ヲ添付スヘシ

一、戶籍謄本若ハ其ノ寫

二、行旅病人行旅死亡人若ハ其ノ同伴者ニ關スル調書(第一樣式)

三、救護當時ノ狀況並救護ノ顛末書(救護年月日養育院入院出院年月日トモ)

四、醫師診斷書若ハ其ノ寫

五、本人ヨリ辨償ヲ得サル顛末書(詳細記載シ且ツ關係文書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘシ)

六、扶養義務者若ハ相續人ニ關スル調書(第二樣式)

七、扶養義務者若ハ相續人ヨリ辨償ヲ得サル顛末書(詳細記載シ且ツ關係文書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘシ)

八、救護費計算書若ハ取扱費計算書(第五樣式)

九、所持金遺留金及所持物件、遺留物件若ハ不用物件賣却金調書(第六樣式)

十、死體發見當時ノ狀況並取扱ノ顛末書(詳細記載シ且ツ關係文書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘシ)

十一、醫師ノ檢案書及警察官署ヨリ引渡通知書若ハ其ノ寫

第八條

本府ニ對シ引取ノ通知ヲ爲シタル行旅病人、同伴者ノ救護費ハ第三條第二項ノ通知ヲ受ケタル後請求スヘシ引取ノ通知後被救護者又ハ同伴者ノ死亡シタル場合ノ取扱費用亦同シ

前項ノ場合ニハ請求書(第四樣式)ノ外ノ左書類ヲ添付スヘシ

一、救護費計算書若ハ取扱費計算書(第五樣式)

二、所持金及所持物件若ハ不用物件賣却代金調書(第六樣式)

三、本人ヨリ辨償ヲ得サル顛末書(詳細記載シ且ツ關係文書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘシ)

四、扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル顛末書(詳細記載シ且ツ關係文書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘシ)

第一項ノ費用ニシテ第三條第二項ノ通知ヲ受ケタル後ニ屬スル分ヲ請求スル場合ニハ請求書(第四樣式)ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一、救護費計算書若ハ取扱費計算書(第五樣式)

二、所持金及所持物件若ハ不用物件賣却代金調書(第六樣式)

第九條

第三條ニ依リ引取通知ヲ爲シタル後行旅病人、同伴者ノ住所判明シ又ハ扶養義務者、家族アルコトヲ發見シタルトキハ第二條ニ依リ直ニ引取ノ通知ヲ爲シ且ツ本府ニ報告スヘシ

前項引取ニ關スル顛末ハ其ノ終了ヲ俟テ直ニ本府ニ報告スヘシ

第十條

第七條第八條ニ依ル請求ヲ爲シタル後行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ住所判明シ又ハ扶養義務者相續人、家族ハ資産アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ本府ニ報告スヘシ

第十一條

前條ノ場合ニ於テ未タ本府ヨリ費用ノ辨償ヲ得サルトキハ第六條ニ依リ請求ノ手續ヲ爲シ死亡人ニ關シテハ遺留物件ノ處分ヲ爲スヘシ

第十二條

前項處置ニ關スル顛末ハ其ノ終了ヲ俟テ直ニ本府ニ報告スヘシ

第十三條

區町村ハ第七樣式ノ名簿ヲ調製スヘシ  
外國人タル行旅病人、行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ直ニ本府ニ報告スヘシ

其ノ救護ヲ止メタルトキ亦同シ

一、國籍及帝國內ノ住所、職業、氏名、年齢、相貌等本人ノ認識ニ必要ナル事項

二、帝國內ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者若ハ親族又ハ相續人ノ住所、居所、氏名、

三、旅行ノ目的及經歷

四、醫師診斷書若ハ檢案書

五、所持金品若ハ遺留金品及其ノ價格

六、救護又ハ取扱ノ顛末

第十四條

行旅病人、行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關シ繰替フヘキ費用ハ左ノ限度ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由ニ由リ本限度ニ超過シタル場合ニ於テハ費用請求ノ際其ノ事由ヲ詳記スルヲ要ス

一、醫師診察料 一回ニ付 五拾錢以内

但シ次回ヨリ一回ニ付金參拾錢以内トス

一、手数料 實費

一、診斷書料 一通ニ付 金拾五錢以內

一、藥價 一日ニ付 金拾錢以內

一、食料 一膳ニ付 金五錢以內

一、看護人給 一日ニ付 金貳拾五錢以內

但シ重病者ノ場合ニ限ル

一、番人給 晝 金貳拾五錢以內  
夜 金參拾五錢以內

一、被服寢具料 一晝夜ニ付 金五錢以內

一、薪炭料油費 實費

一、養育院入院料 一日ニ付 金貳拾七錢

一、借家料 一日ニ付 金五錢以內

一、小家掛料 實費

但シ借受クベキ家屋ナキ場合ニ限ル

一、護送及運搬費 實費

但シ行旅病人發病地ヨリ救護所迄救護所ヨリ住所迄ノ費用ニシテ汽車汽船ハ下等

賃金トス

一、死體檢案料 金五拾錢以內

但シ警察官署ノ職務ニ依リ行ヒタル場合ヲ除ク

一、死體檢案書料 一通ニ付 金拾五錢以內

但警察官署ノ職務ニ依リ行ヒタル場合ヲ除ク

一、棺桶擔棒等代 金壹圓貳拾錢以內

一、死體火葬料 金壹圓貳拾錢

但シ區長直接取扱ノ分ニ限リ六歲以上ノ者金壹圓八拾錢以內六歲未滿ノ者金壹圓以內

一、假埋葬並運搬人足ニ係ル諸費 金壹圓五拾錢以內

一、墓標費 金拾錢以內

一、公告料 一行ニ付 金拾五錢以內

第十五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ要シタル物件ニシテ不用ニ屬シタルモノハ之ヲ賣却シ其ノ代金ハ救護若ハ取扱費用ニ充ツヘシ但シ賣却スヘキ價格ナキモノハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第十六條 行旅死亡人ノ遺留ニ係ル有價證券及見積價格金拾圓未滿ノ物件ハ競賣ニ付セス隨意契約ヲ以テ賣却スルコトヲ得

第十七條 前項ノ場合ニ於テハ二人以上ノ見積價格書ヲ徵シ其ノ高價ノ者ニ賣却スヘシ  
本手續ニ依リ差出スヘキ書類ハ總テ其ノ所屬ノ島司郡長地役人ヲ經由スヘシ

附 則

第十八條 本令ハ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

第十九條 明治三十六年四月東京府訓令第十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一様式) 行旅病人、行旅死亡人若ハ同伴者ニ關スル調書

氏 名

- 一、本籍
- 二、住所
- 三、居所
- 四、族稱
- 五、生年月日
- 六、戸主非戸主ノ別(若シ戸主ニアラサレハ戸主トノ續柄)
- 七、養子非養子ノ別
- 八、職業
- 九、資産並生活ノ狀況

(第二様式)

但右列記事項中添付セシ戸籍謄本ニ依リ明瞭ナル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

行旅病人、行旅死亡人若ハ其ノ同伴者何某ニ對スル扶養義務者家族若ハ相續人調書  
何々(本人ニ對スル續柄)

- 一、本籍
- 二、住所
- 三、居所
- 四、族稱
- 五、生年月日
- 六、職業

何 某

七、資産並生活ノ狀況

(第二様式)

行旅病人、行旅死亡人若ハ其ノ同伴者何某ニ對スル所持金品若ハ遺留金品調書

一金何程

内 譯

|      |    |
|------|----|
| 金貨   | 何程 |
| 銀貨   | 同  |
| 銅貨   | 同  |
| 紙幣   | 同  |
| 一、何品 | 同  |
| 一、何々 | 同  |
| 以上   |    |

(第四様式)

行旅病人、行旅死亡人若ハ其ノ同伴者救護費若ハ取扱費請求書

一金何程

何某ニ對スル救護費若ハ取扱費辨償  
請求高

但シ別紙計算書ノ通

右取扱手續第何條ニ依リ請求候也

年 月 日 郡(區)(島)町村 職名 氏 名

知事 宛

(第五様式)

行旅病人、行旅死亡人若ハ同伴者救護費若ハ同取扱費計算書  
一金何程 何某ニ對スル救護費若ハ取扱費總額

内譯

| 種目    | 金額 | 數量 | 單價 | 備考           |
|-------|----|----|----|--------------|
| 醫師診斷料 | 何  | 何  | 何  | 年月日 初診<br>何回 |
| 何々    |    |    |    |              |
| 同     |    |    |    |              |
| 計     |    |    |    |              |

本人支出金遺留金、不用物件賣却代金 遺留物件賣却代金扶養義務者何某辨償金若ハ何々ヲ以テ充用

一金何程

差引

金何程

以上

不足額

(第六様式)

行旅病人、若ハ同伴者何某所持金又ハ行旅死亡人何某遺留金及同物件賣却代金調書  
行旅病人若ハ同伴者何某救護ニ要セシ不用物件賣却代金調書

一金何程

内譯

| 品目 | 金額 | 員數 | 單價 | 備考 |
|----|----|----|----|----|
| 何々 |    |    |    |    |
| 同  |    |    |    |    |
| 通貨 |    |    |    |    |
| 計  |    |    |    |    |

(第七様式)

行旅病人、(又ハ死亡人)名簿

(用紙美濃半切)

| 備考                | 線替支辨ノ金額其他 |     | 線替金支拂ノ年月日 | 差引不足額ヲ東京府へ請求シタル年月日及番 | 上記ノ金額ヲ府ヨリ受領シタル年月日 |
|-------------------|-----------|-----|-----------|----------------------|-------------------|
|                   | 線替支辨ノ金額   | 其他  |           |                      |                   |
| 一、年月日(何)新聞ニ公告(何)行 | 救護日數      | 救療費 | 自年月日      | ナシ                   | ナシ                |
| 一、年月日(何)新聞ニ公告(何)行 | 救護日數      | 救療費 | 至年月日      | ナシ                   | ナシ                |
|                   | 埋葬費及公告料   | 辨償額 |           |                      |                   |
|                   | 差引不足額     |     |           |                      |                   |
|                   | 線替金支拂ノ年月日 |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |
|                   | ナシ        |     |           |                      |                   |





窮民恤救申請調査箇條

明治八年七月三日  
内務省達乙第八五號

府 縣

窮民恤救ノ儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以テ御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ者共救助筋申請ノ砌ハ左ノ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨心得トシテ相達候事

第一條

一、恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼廢疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス不能事實赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年齡廢疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ル等ノ儀コレアリテハ恤救規則ノ趣旨ニモ乖戾可致ニ付假令七十一年以上又ハ廢疾ノ者タリトモ其業ニヨリテハ生産ノ道可相立者ナシトセサレハ篤ト現場ノ實況ヲ査定シ眞ニ不得止者而已具狀イタスヘシ

第二條

一、同上ニヨリ是迄其市村内或ハ隣保ノ情誼ヨリ且ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ不乞ヲ以テ本旨トスヘシ

第三條

一、同上ニヨリ互ニ協救スト雖モ其手當不足ニシテ其幾内分ヲ官ヨリ不仰ハ補助スル不能等ノ如キハ其幾分給助ノ次第及ヒ石數金員ニ至ル迄詳悉記載申出ヘシ

第四條

一、同上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖モ全快ノ期ヲ篤ト調査シ往再支給等無之様注意イタスヘシ

第五條

一、同上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ雛形ニ準シ詳悉記載別紙ニ製シ具申イタスヘシ

但規則脇書ニコレアル餘ノ家人アラハ本文雛形ニ配載スル本文名前ノ左傍ニ委詳書記スヘシ

第六條

一、同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節何月幾日ヨリ何日分ト記載伺出ヘシ

第七條

一、同上ニヨリ同濟ミノ上其石割ヲ以テ給與セシムルハ勿論ナレト譬ハ一ケ年壹石八斗ヲ日途ニ立其以内ヲ以テ足レリトスルカ如キハ其數量實地至當ニ斟酌シ適宜ノ處分ハ不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條

一、老幼廢疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下タレハ本人ノミハ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人廢疾疾病老幼ニテ事實難捨置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルコトモアルヘキニ付キ其趣旨ヲ以具狀スヘシ併シ右様ノ場合ニオイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込伺出ツ可シ

(雛形)

用紙美濃

恤救名簿

某 縣府

(△印ハ朱書)

某 府下(何大區何小區)

某國某郡某町

農或ハ誰亡長男女歟

工△又ハ元何藩士族亡其父母

兄弟姉妹ノ類當時商△平民歟

其外(厄介)歟

誰

何

歲

一、廢

疾

但生來篤疾ニテ其名稱及年月且親戚或ハ市村內隣保等ノ情誼ヨリ助力ヲ受ケシ處右不行届次第又ハ譬ハ跛躄盲目ノ類ニテ手業ヲ以テ生計ヲ營ミ來リシカ終ニ爲ス能ハス去リ迎他ニ保養スヘキ者無之云々等其事實詳悉記載スヘシ何年何月ヨリ何ノタメ同斷事故同斷

一、疾 病

肩書右ニ做フ

誰

何

歲

但何年何月ヨリ何症ニ罹リ前同斷

一、幼 弱

同 斷

誰

何

歲

但何年何月ヨリ父母親戚等ニ離別ノ事故等前同斷

一、老 衰

同 斷

誰

何

歲

但前ニ做フ

右之通有之候也

何年何月 日

府 縣 長官

名 剛

恤救規則心得第八條 一家數人救助方委任ノ件

明治十九年三月德丁第六號ノ内務省訓令

恤救施行上ノ事項ハ例規ニ適當 [一家一] 名救助ノ分ハ明治九年當省乙第四十九號達ヲ以テ既ニ委任セリ唯明治八年當省乙第八十五號達ニ依リ一家數人ノ救助ニ係ルモノハ仍ホ伺出ヘキ成規アリ然ルニ恤救ヲ請願スル者ハ親戚隣保ノ協議等殆ント盡キ忽チ飢餓ニ迫ラントスル無告ノ窮民ニ限ルモノナレハ其都度

經伺ノ土施行スルトキハ徒ニ若干ノ時日ヲ要シ實際困難ノ事情アルヲ以テ自今一家數人ノ救助ト雖モ

總テ之ヲ委任ス抑恤救ヲ受クル窮民ハ數年ヨリ増加セリ今ヤ殆ント壹萬人ニ垂トス且十八年六月ノ調査ニ依レハ受救現員千人以上ニ達シタル地方アリ其十人ニ滿タヌ又全ク之ナキモノアリ夫レ如此窮民ノ數懸隔スル所以ノモノハ土地ノ冷熱人口ノ多寡ニ因ルヘシト雖モ願フニ其ノ受救者ノ夥多ナル地方ハ區町村ニ於テ救助方法ノ設ケナク又親戚隣保協救スルノ情誼ニ乏シク苟モ恤救規則ニ恰當スルモノハ直ニ官ノ救助ヲ請フヲ以テ常トスル弊ナキヲ難保故ニ尙一層精密ノ調査ヲ遂ケ可成官救ヲ仰カス區町村又ハ親戚隣保等ニ於テ救助セシメントコトヲ要ス

### 恤救規則適用ニ關スル件

明治三十年一月  
縣甲第二一一號縣治局長通牒

恤救規則ノ適用ニ關シ左ノ通決定相成候間爲御心得及通牒候也

- 追テ本件ニ抵觸セル從前ノ指令通牒等取消サレタル儀ト御承知有之度候也
- 一、一家數人舉ケテ廢疾々病老幼等ニシテ自活シ能サル者ハ其情狀ヲ精査シ救助スルコトヲ得
  - 一、家人中入營入獄又ハ失踪逃亡スル者アル場合ニ於テ餘ノ家人廢疾々病老幼等ニシテ自活シ能ハサルトキハ其情狀ヲ精査シ救助スルコトヲ得
  - 一、僅少ノ土地家屋等ヲ所有スルモ負債ノ抵當トナリ之ヲ賣却スルモ其負債ヲ償フコト能サル者ノ如キハ其ノ情狀ニ依リ窮民トシテ取扱フコトヲ得

同一戸籍内二十五年以上七十年未滿ノ家族アルトキハ  
一家舉ケテ廢疾疾病老幼ニアラサル限り救助セサル件

宮崎縣照會明治三十五年五月

恤救規則各項但書へ餘ノ家人云々ト有之候處右ハ扶養義務及親族關係ナキモノト雖モ同一戸籍へ十五年以上七十年未滿ノ家族アルトキハ救助スヘカラサル儀トハ存候得共聊カ疑義ニ涉リ差懸リタル義有之候條至急御回報相成度

地方局長回答明治三十五年五月

右ハ三十年一月縣甲第二一一號通牒ニ該當セサルモノナルニ於テハ御見込ノ通ト存候

### 無告ノ窮民申出方

東京府訓令第二十九號(明治三十一年十月五日)

改正 大正六年訓令第三〇號

島廳、郡役所、市役所、區役所、町村役場、島役所、島村役場

老幼廢疾々病等ニテ何等ノ業モ爲ス能ハス事實赤貧ニシテ他ニ保育スル者ナク全ク無告ノ窮民ト認メラル、者アルトキハ區長村長名主ヨリ郡市長地役人ニ具申シ郡市長地役人ハ調査ノ上意見ヲ附シ申出ヘシ八王子市ニ於テハ市長ヨリ小笠原島ニ於テハ島司ヨリ具申スヘシ但具申ノ節ハ本人戸籍謄本並疾病者ニシテ醫師ノ診斷書ヲ徴シ得ヘキモノハ之ヲ添付スヘシ

明治二十六年十二月當府訓令第三十號ハ廢止ス

濟貧恤救ハ隣保相扶ノ情誼ニヨリ互ニ協救セシメ

國費救助ノ濫給矯正方ノ件

明治四十一年五月

濟貧恤救ハ隣保相扶ノ情誼ニ依ルヲ本體トシ實際難差置無告ノ窮民アル場合ニ於テハ爰ニ始メテ國庫  
 費ヲ以テ救助シ得ヘキハ恤救規則ノ明定スル所ニ有之又同規則ノ施行細則タル明治八年內務省達第八  
 十五號ニ於テモ尙此趣旨ヲ反覆シ市町村內或ハ隣保ノ情誼ニ依リ互ニ協救スルモノ、如キハ別段官ノ  
 給與ヲ請ハサルヲ以テ本旨トスヘキコトヲ明ニセリ隨テ當局者ニ於テハ常ニ此趣旨ヲ失ハサル様可取  
 扱筈ニ候處三十八年來ニ於ケル國庫救助費ニ就キ各府縣ヲ支出額ヲ見ルニ少キハ數百圓ニ止マルモノ  
 アルモ其ノ多キハ數千圓以上ノモノ有之候而シテ此ノ如ク甚シキ懸隔アルハ敢テ人口ノ多寡資力ノ程  
 度土地ノ狀況等ニ依ルモノト認メ難ク畢竟スルニ單ニ從來ノ仕來リ任カセ別ニ深ク審査ヲ加ヘサルト  
 且ハ地方隣佑ノ情誼ニ厚薄アルノ致ス所ト被存候斯クテハ制度ノ趣旨ニ照ラシ遺憾ノ次第ニ有之候間  
 深ク御注意ノ上隣保相扶ノ實ヲ舉クルニ努メラレ度又此情誼ヲ敷衍シ地方團體ヲシテ自ラ其ノ負擔ニ  
 當ラシムルハ固ヨリ可然筋ニ付市町村先ツ之カ救助ヲナシ之レカ資力ナキ場合ニ於テハ始メテ府縣ニ  
 及ホスカ如キハ恤救規則ノ精神ニ適スルモノト被存候就テハ將來右ノ順序ニ依リ處理シ事情止ムヲ得  
 サルモノハ從來ノ如ク國庫費ヨリ支出シ可然モ其救助ニ關シテハ此際特ニ周密ノ查察ヲ遂ケ一旦救助  
 ヲ爲セルモノト雖モ繼續支出ノ要ナキモノハ之ヲ中止スル等苟モ濫給ノ弊ナカラシメ以テ救助ノ本旨  
 ヲ貫徹候様御措置相成度隨テ今般配付セラレタル本年度救助費ニ付テモ可成出來得ル丈節約ノ方法ヲ  
 講セラレ度依命此段及通牒候也



4  
K